2026 年度津田塾大学卒業生のキャリア状況等に関するアンケート

2026.10

学生生活課作成

調査概要

目的：卒業生の本学における学修成果や卒業後の就業状況をもとに、教育の成果や効果を検証し今後の教育の質の改善につなげていく。

方法：Google Forms による回答

対象：2024 年度　学部卒業生

調査期間：2026 年 9 月 11 日（金）～2026 年 9 月 23 日（水）

回答率：

依頼人数	回答数	回答率
713 名	96 件	13.5%

調査項目：

【1】　身につけることができたと思う学習・能力・スキルについて（単一回答）

【2】　大学生活において特に「身につけたほうがよい力・能力」（単一回答）

【3】　在学中の学習・経験について

1）卒業後の生活にいて「役立っている」大学在学中の学習・経験（単一回答）

2）津田塾大学での学習や経験が卒業後に活かされていると感じること（自由記述）

【4】　卒業後のキャリアの状況について（単一回答）

1）大学へ報告した卒業後の進路

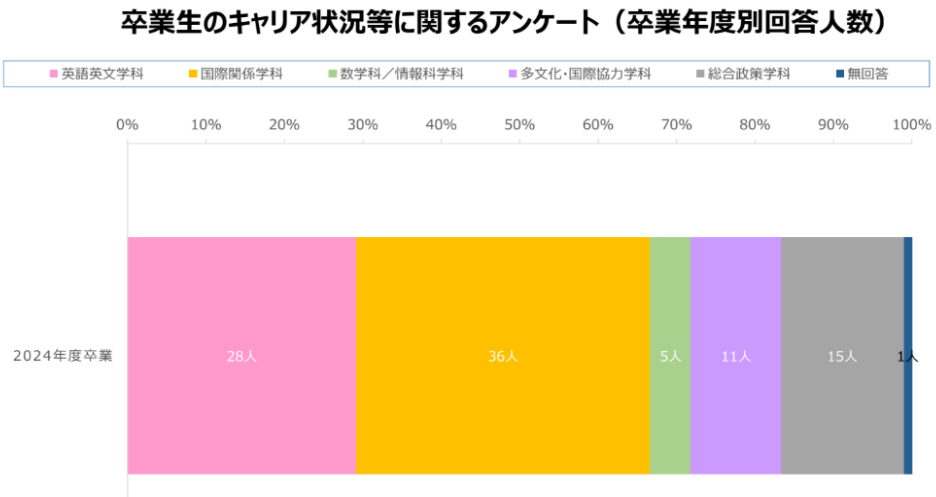
2）卒業後就職した職業の継続状況

3）卒業後の進路に対する満足度

4）本学に対する「現在」の評価

【5】　大学の教育の質の向上について意見（自由記述）

回答者属性

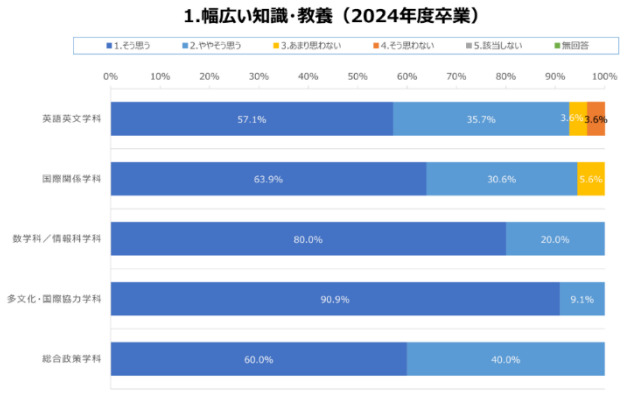


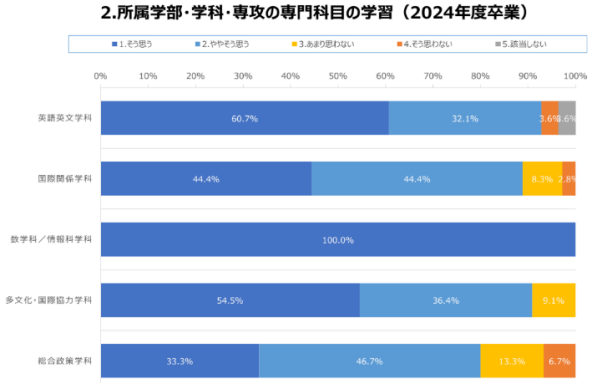
調査結果

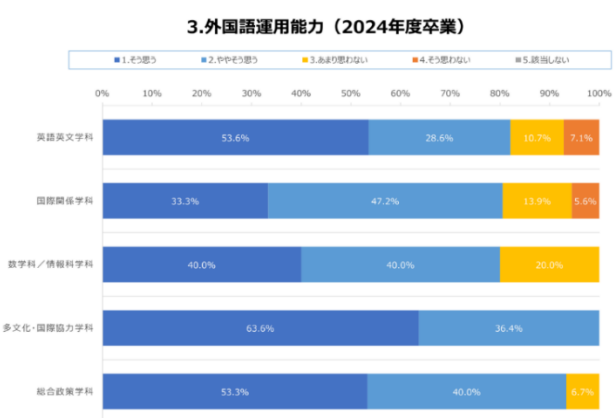
【1】　身につけることができたと思う学習・能力・スキルについて（単一回答）

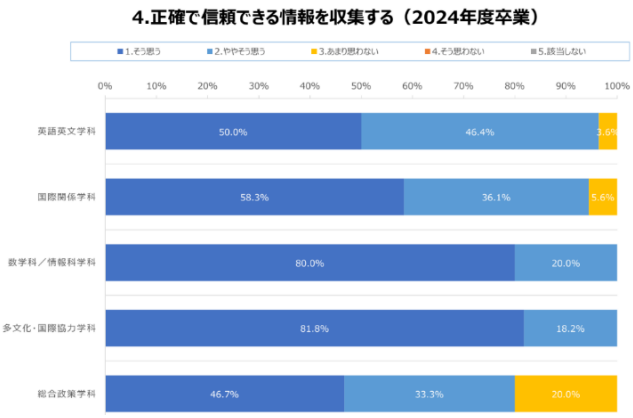
在学中の学習や経験を通して、「身につけることができたと思う学習・能力・スキル」について、以下の項目で最も該当するものを選択してください。

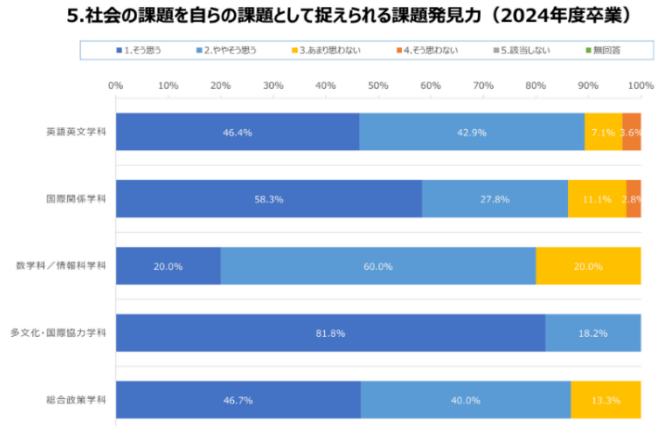
「1. 幅広い知識・教養」、「2. 専門科目の学習」、「4. 正確な情報収集」、「12. 異文化理解」、「15. 責任感」、「19. 継続的な学習力」の 6 項目は、全学科の約 8 割以上が「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答があった。一方で、「3. 外国語運用能力」は英語英文学科や多文化・国際協力学科で「そう思う」が高く、「8. 数字・データに基づく思考」や「17. PC・情報ツール活用」は数学科・情報科学科で高い割合を示すなど、学科の学びの特徴を顕著に反映した結果となった。

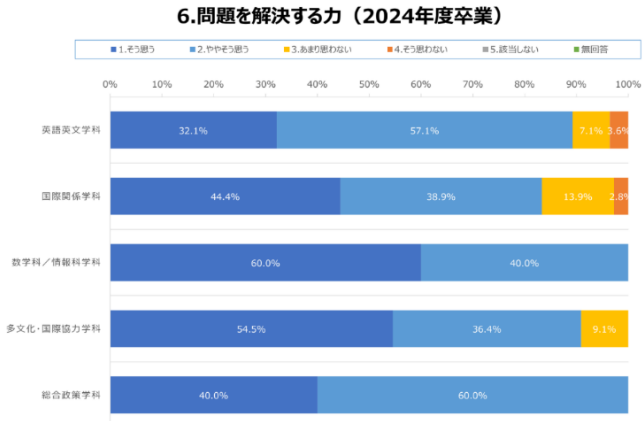




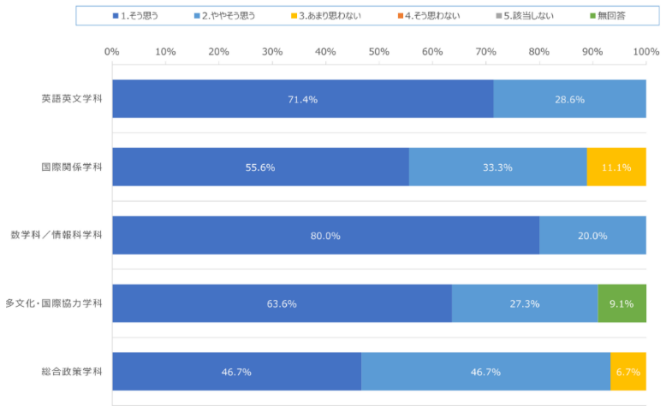




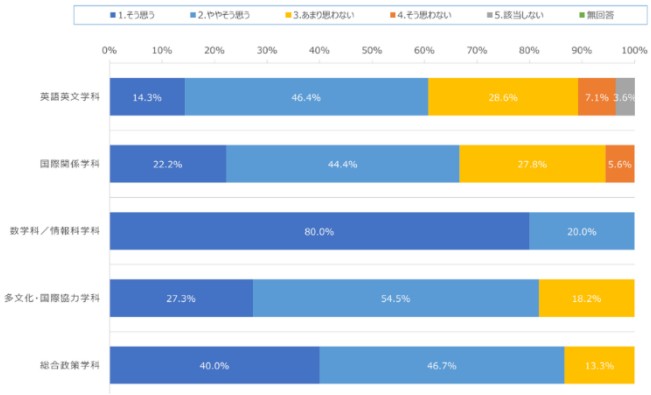




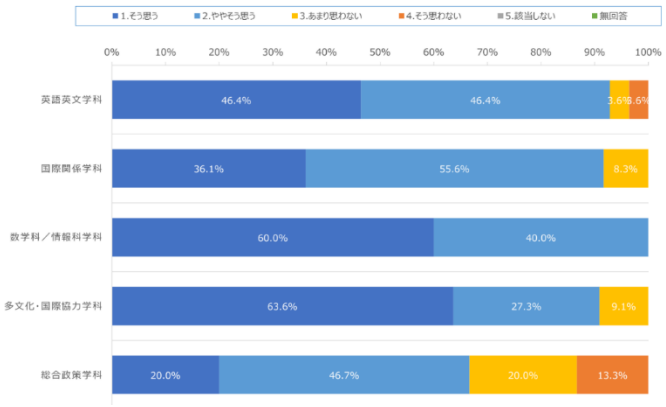
7.物事を批判的・多面的に考える（2024年度卒業）



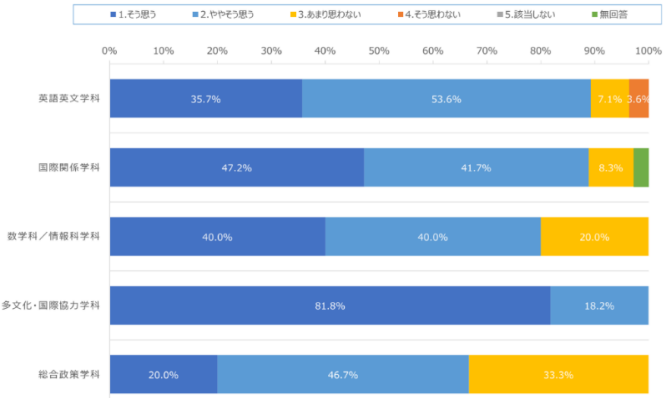
8.数字やデータに基づいて物事を考える（2024年度卒業）



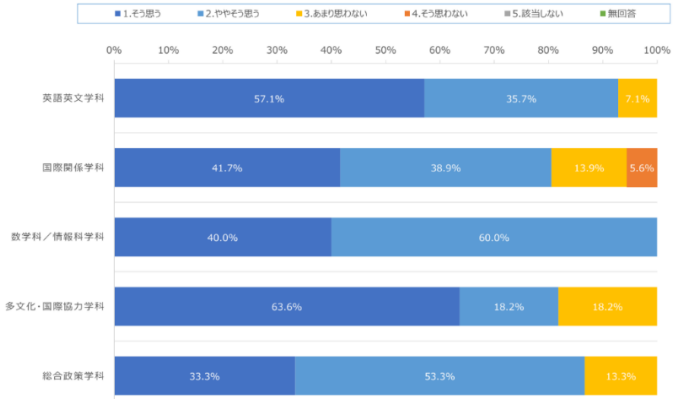
9.自分の意見を論理的に相手にわかりやすく伝える（2024年度卒業）



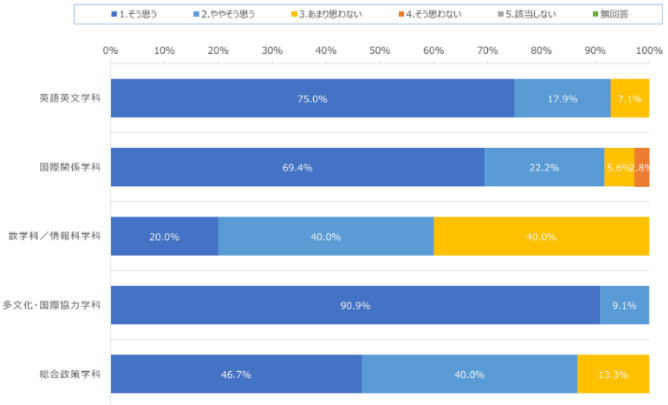
10.適切な日本語を用いて論理的に文書を作成する（2024年度卒業）



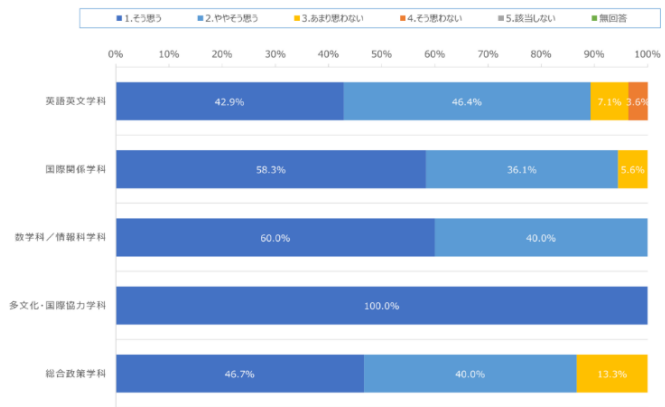
11.効果的なプレゼンテーションができる（2024年度卒業）



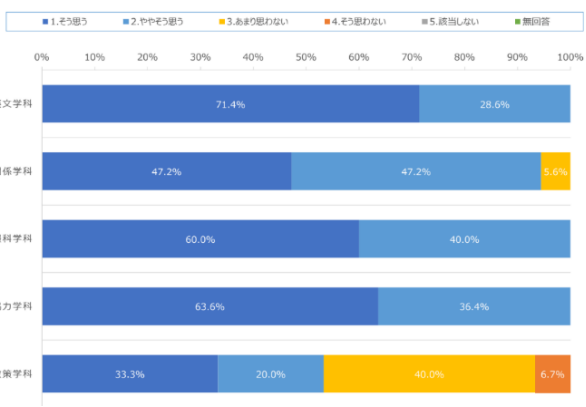
12.異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力（2024年度卒業）



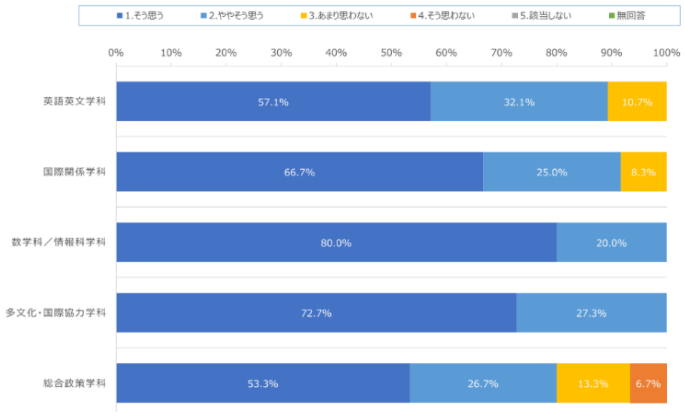
13.円満な人間関係を築いたり調整する（2024年度卒業）



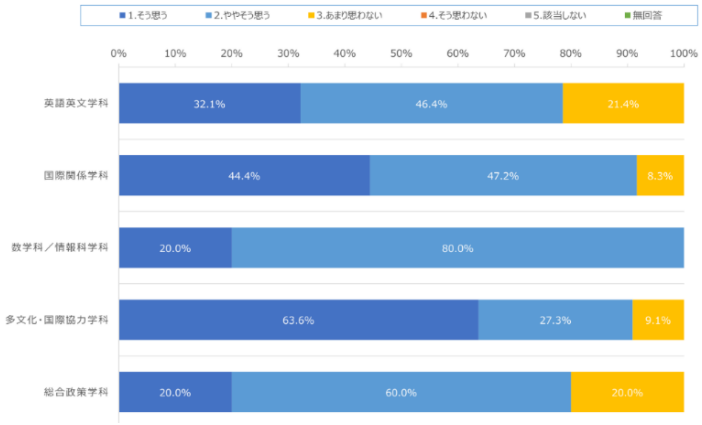
14.目標を設定し、計画的に実行すること（2024年度卒業）



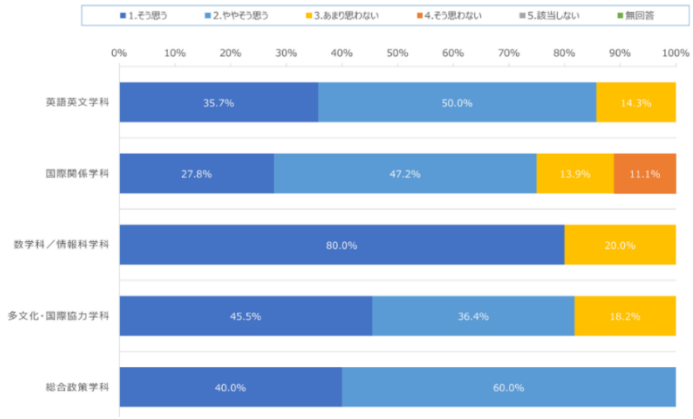
15.責任感を持ってやり遂げる力（2024年度卒業）



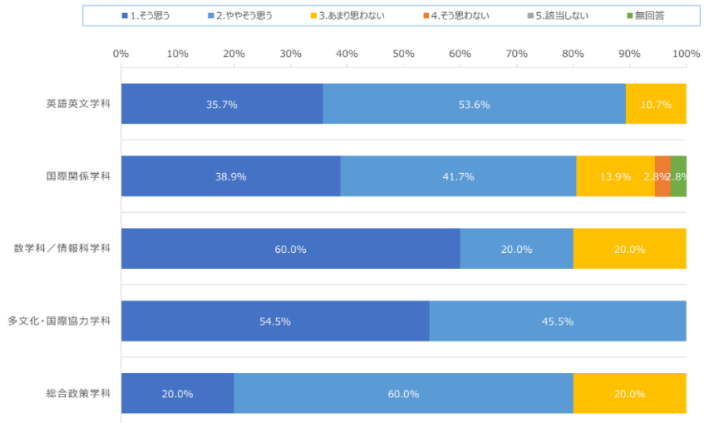
16.目的に向かって集団の中でリーダーシップを発揮することができる（2024年度卒業）



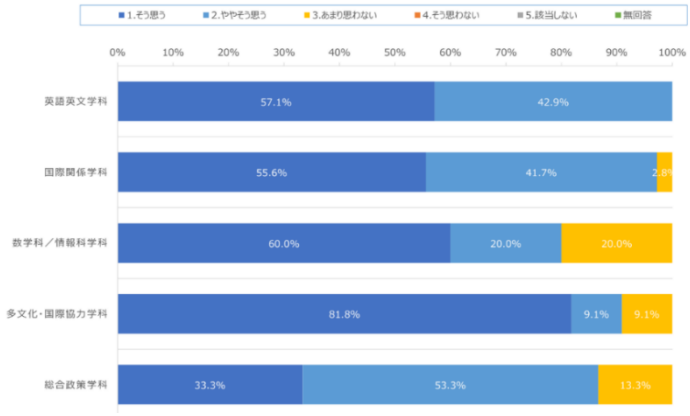
17.PCの操作、情報ツールを用いる力（2024年度卒業）



18.未知の問題に柔軟に対応する力（2024年度卒業）



19.新しいことを学び続ける力（2024年度卒業）



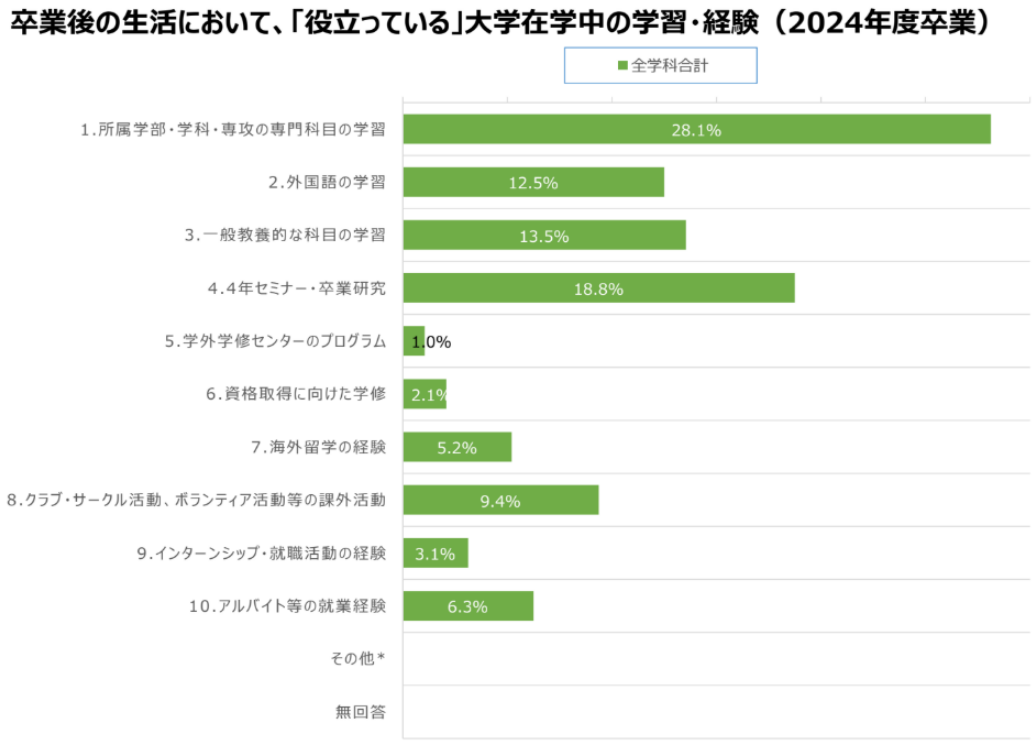
【2】　身につけたほうが良いと思う能力

本学で学ぶ学生が特に身につけたほうが良いと思う能力について、もっとも該当するものを１つ選択してください。



【3】　在学中の学習・経験について

卒業後の生活において、大学在学中の学習・経験でもっとも「役立っている」と感じるものを１つ選択してください。



【4】　卒業後のキャリアの状況について（単一回答）

1）大学へ報告した卒業後の進路

2）卒業後就職した職業の継続状況（2024年度卒業）

3）あなたの卒業後の進路に対する満足度をお答えください。（2024年度卒業）

4）卒業後、津田塾大学での学びや経験にどの程度満足していますか。（2024年度卒業）

以上

